

気仙沼

気仙沼市が進める東日本大震災の防災集団移転促進事業は10月末で、47地区に整備を計画する944区画のうち500区画(53・0%、31地区)と半数以上の造成が完了したことが、市のまとめで分かった。宅地の引き渡しと住宅建設が進む一方、空き区画も生じており、市は近く希望者を再募集する。

造成が完了した区画は3月末時点で10団地123区画だったが、4月以降に小泉町(68区画)や階上長磯浜(65区画)、所沢(45区画)など大規模な団地造成が完了。宅地の地盤強度に不具合が生じた11区画では補強工事を施した。

引き渡し区画の住宅着工戸数は9月末で約280戸と、6月末の約160戸から急増。うち9月末までに70戸が完成し、被災世帯が新しい生活を始めている。

集団移転 半数の造成完了



市は造成工事を加速させ、2016年3月末までに全体の98・4%に当たる46地区で造成工事を完了させる見通し。

新たな住居整備着々と

し。残る南気仙沼(15区画)は、同地区の土地区画整理事業の遅れにより18年3月末に引き渡す。

一方で、造成までに時間を要したことから、希望者が別の場所で自力再建したり、災害公営住宅への入居を決めたりして空きが生じた区画もある。市は6月に全体の造成区画数を996区画から944区画に減らしたが、それでも市によると「数十区画」(担当者)の空きが出ているという。

市防災集団移転推進課は「造成工事は着々と進んでいる。空きが確認できた区画は年内に希望者を再募集したい」と説明している。

造成が完了し、住宅の建築が進む小泉町地区防災集団移転団地